

前提(背景)

(資料編 p.32)

- (1) 2040年ごろまでの社会構造の変化
人口の減少、持続的に発展する社会の実現、デジタル・トランスフォーメーションの進展
- (2) 千葉市図書館の現状と課題
5つの視点(知の集積、知の活用、こどもの読書環境、サービス、運営基盤)で現状と課題を整理

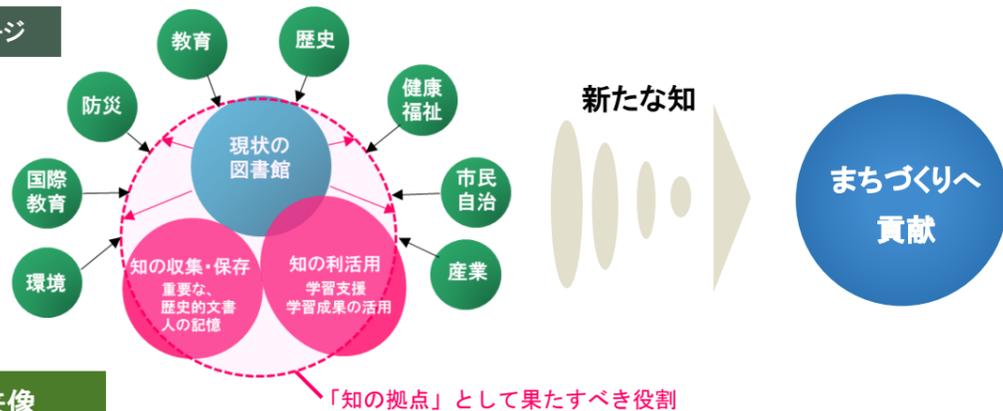
1 基本理念・図書館の目指すべき将来像

(本編 p.5)

基本理念

地域における「知の拠点」として、果たすべき役割を追求し、多くの市民に様々な「知の体験」を提供することを通じて、心豊かな市民生活の実現と千葉市の持続可能な発展に貢献する

イメージ



将来像

知の循環をつくり、未来へつなぐ知を生み出す「知の拠点」



2 基本目標と施策展開の柱

(本編 p.8)

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現

- (1) 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進
- (2) 知をつなげるプラットフォーム等の構築
(多様な主体による知の創出・活用)
- (3) 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現

- (1) 誰もが利用しやすいサービス環境の実現
- (2) 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

3 主な施策展開の方向性

(本編 p.10)

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現

(1) 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進 ※ ●は重点事業

- 未来へつなぐ「知」のアーカイブ計画の策定とインタビューなどによる「知」の収集、デジタル化と提供プラットフォームの構築(知の見える化)
- 千葉市の歴史的文書の整理・保存等
- 未来へつなぐ「知」の発掘等に関する市民協力体制の構築

(2) 知をつなげるプラットフォーム等の構築

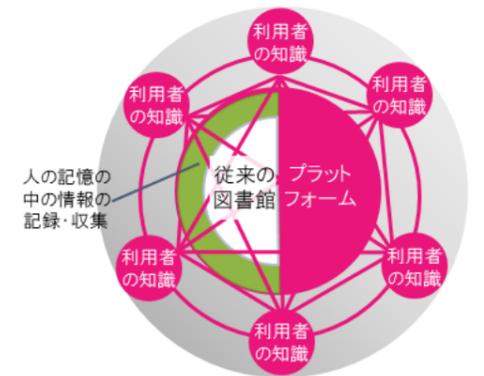
(多様な主体による知の創出・活用)

- SNSを活用した知識の交流を促す仕組みの構築
- 学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供
- 人と知識、知識と知識をつなぐセミナー等の開催
- 生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化

(3) 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

- こども読書活動推進計画の策定
- こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実
- 学校・学校図書館との連携協力の促進

知識の交流イメージ



基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現

(1) 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

- 利便性の高い場所への図書コーナーや返却ポスト等の設置
- 開館日・開館時間の最適化
[利用需要に応じ、民間機能を活用した図書コーナー等の設置]
- 障害者や外国人など誰もが利用しやすい環境の充実
- 自動貸出機等による貸出サービスのセルフ化

(2) 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

- 中央図書館の機能強化
[特長のある知の拠点の中心施設としての機能整備 (ワークスペース、グループ学習室等の整備など)]
- 地区図書館・分館の再編
[一部地区図書館は特定分野の専門的な資料を揃えた図書館に再編、分館のサービスポイント化と組織のフラット化]
- 図書資料等の保存・物流機能の一元化
[保管機能と物流機能を一元的に担う新たな拠点の整備と運営の民間機能の活用]
- 図書館施設の老朽化の対応
[土気図書室、白旗分館、若葉図書館など老朽化施設の再整備 (複合化、拠点性のある商業施設の活用等)]
- 窓口運営業務の民間機能の活用
[施設の再整備後の窓口運営業務の民間委託化 (土気図書室から)]

4 ビジョンの実現に向けて

(本編 p.22)

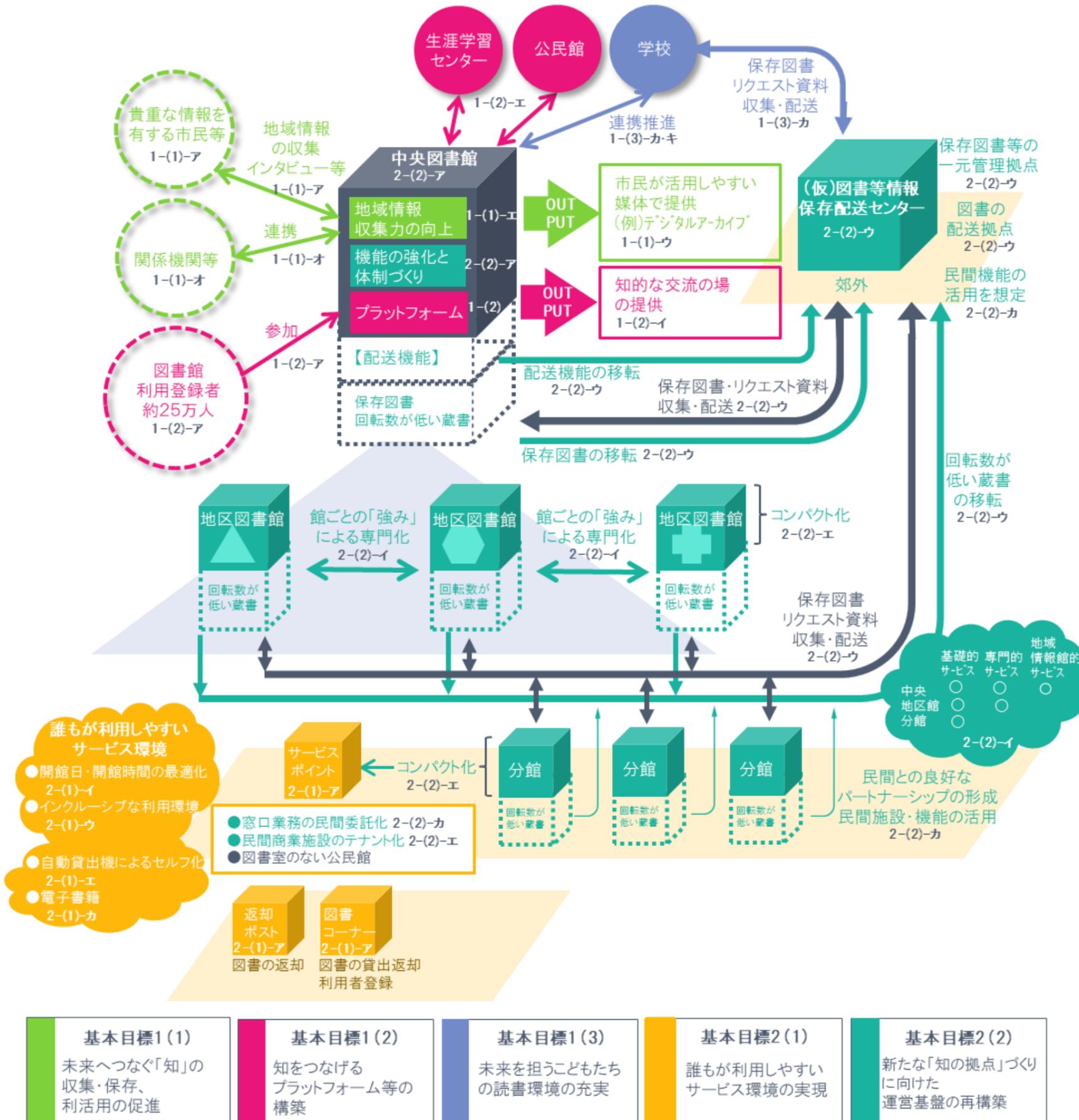
(1) 基本的な考え方

- 図書館職員の意識変革 ○ 柔軟・即応的に挑戦する組織への転換 ○ 選択と集中による経営改革の推進

(2) 推進体制

- (3) ビジョンの検証・見直し およそ5年ごと

6 基本目標達成後のイメージ



開放的な学びや知の交流の場の事例:札幌市図書・情報館



札幌市図書・情報館は、札幌市民交流プラザに2018年10月7日(日)オープン。貸出機能に重点を置いた既存の図書施設とは異なる、調査相談・情報提供に特化した『課題解決型図書館』として整備されています。

資料のテーマを、WORK(仕事に役立つ)、LIFE(暮らしを助ける)、ART(芸術に触れる)に絞り、文学などを置かないなど、サービスを厳選する代わりに質を高めています。また、常に最新の情報を多くの人に伝えるため、資料は館内閲覧のみとしています。

レファレンスが進み、交流が深める仕組みとして、施設の中心にレファレンスカウンターを設置するほか、同カウンター内に各種専門機関による無料相談窓口を設置し、司書と相談員の連携を促がしています。また、グループでの調べものや図書館資料を利用しながらのビジネスミーティングを活性化させる目的から、館内での会話は自由としています。一方、閲覧に集中したい利用者のため、静かに読書ができるリーディンググループも用意しています。